

JET からの手紙

「弘前でいいかも」な毎日を

青森県弘前市広聴広報課 国際交流員
楊 銀佳 (ヨウ ギンカ)

2018年2月24日、まだ会社で残業している私のもとに、1通のメールが来ました。CIR公募合格通知でした。配属



弘前市石川地区

先は「青森県弘前市」、初めて聞いた地名に「りんご」以外、何にも思い浮かびませんでした。それから約1か月、怒涛の書類作成や準備手続きに取り掛かり、2018年4月に青森県弘前市役所に赴任しました。

弘前市は人口約17万人で青森県で3番目に大きな都市です。街全体が自然豊かで、程よいサイズ感が気持ちよく、ちょっと足を延ばせば、りんご畑と田んぼが目の前に広がっています。北京から来た私にとってとても新鮮な景色でした。

CIR としてのお仕事

弘前市の国際交流員は主に通訳、翻訳、留学生インターンシップの対応、課のSNSアカウントの運営を担当しています。また、外部から依頼があれば、出前講座や外国語対応研修なども行っています。



市長表敬訪問で通訳する筆者（左奥）

通訳についての業務は、市役所のさまざまな事業に関連したもので、その内容は多岐にわたります。例えば、青森港に寄港し

たクルーズ客船の外国人観光客を弘前駅で出迎えし、バスの乗り方や市内観光地について案内したり、特産品輸出の関係で、台湾から来たパイヤーの視察に同行

し通訳します。また、文化交流で来られた職人の方に伝統工芸品やねぶたを紹介し、ねぶた絵師との交流をサポートしたり、市役所の窓口に来た留学生に必要な行政手続きを担当職員に確認しながら説明するなどしました。このような新たな体験を通じて、弘前のことをより深く知ることができました。

翻訳についての業務は、主に観光パンフレットや街や駅に設置する案内看板、そして友好都市との交流に係る文書などを担当しています。弘前市にはこれまで、韓国人と中国人の国際交流員がそれぞれ1人いたほか、独自の国際化推進員として韓国系ニュージーランド人の方もいました。先輩方が残してくれた訳文はとても貴重な財産です。共有ファイルに散らばっている訳文をより検索しやすいように、翻訳データベースを作りました。これにより、今までどのような内容が訳されたかが分かり、似たような内容を訳すときの参考とすることができ、効率性と整合性を図ることができました。

SNSの運営については、主に市のイベント告知や四季折々の景色などの季節ネタをWeibo（中国語）、Facebook（英語）、Instagram（日本語）を通じて発信しています。予算のない中、どのようにしたらフォロ



ねぶた絵について説明する筆者（左から2番目）

ワー数とリーチを増やせるのか、担当者と相談し、データを分析したり、投稿時間を変えたり、カメラのことを勉強したり、試行錯誤を繰り返してきました。特に、2020年4月以降は、新型コロナウイルスの影響で、外国人観光客がほとんど来られなくなり、国際交流行



函館市で開催したPRイベントで

事やイベントもほぼキャンセルされ、今までどおりの仕事ができない状況になりました。そのような状況の中、唯一続けられたのがSNSでの発信でした。日本有数の桜の名所である弘前公園の桜が咲く4月から5月にかけては、緊急事態宣言期間中であり、感染拡大防止のため、誘客につながるリアルタイムの情報発信ができない期間はありましたが、時間があるたびに市内各所を回って取材し、時間差をとって発信し続けました。「また弘前に行きたい!」「きれいな写真、ありがとう」「去年行ったよ。がんばってください!」などのコメントを見たとき、胸がとても熱くなり、がんばって発信し続けてよかったと思いました。

人とのつながりで世界が開く

だれも知らない土地で暮らしてみても、改めて人とのつながりの大切さを実感しました。

青森AJETが主催したお花見会に参加したきっかけで、ほかの市町村のCIRとALTたちと知り合い、お互いの地域情報を共有することができました。

また、フラメンコ教室に通う中で、とても元気なおば



スキーを楽しむ筆者



津軽カタリストの皆さんと（左から2番目）

さまたちに出会い、休みの時に一緒に山に登ったり、スキーに行ったり、地元の人だからこそ知っている弘前を楽しむことができました。

地元劇団の公演を見に行っただけで、「津軽カタリスト」という声優劇団に入りました。ほかのメンバーと一緒に回し読みで表現力を磨いたり、音響設備のことを勉強したり、定期公演でちょっとした役を演じてみたり、演劇好きな私にとって大変ありがたい経験でした。振り返ってみると、これら全てのことが「人とのつながり」のおかげでできたことだと思います。

最後に

あっという間にCIRとしての4年目に入りましたが、それでもまだまだ弘前の知らない魅力が数多くあると思います。引き続き、弘前で過ごす日々を楽しみながら、もっと多くの人とつながり、地元の人に中国のことを知ってもらい、世界に向けて弘前のことを発信したいと思います。

プロフィール



楊 銀佳
(ヨウ ギンカ)

中国北京市出身。大学で日本語を専攻。卒業後、英語の医療コーディネーターと日本語の翻訳者・チェッカーとしてそれぞれ4年近く働き、2018年4月

から青森県弘前市の国際交流員として勤務。

将来の夢はフリーランスの翻訳者になること。

趣味は合気道、旅行、舞台鑑賞。